

# 技術・資機材

この欄は、各業界の技術・資機材情報を毎週月第1、第3週で報道する欄です。業界・企業の情報をごとどしお寄せ下さい。編集局・新製品研究部

入札情報サービス  
**ビル新聞!**  
入札王  
ビルメンの入札情報をメールでお届けします!  
無料トライアル好評受付中!  
お問い合わせは...  
**(03) 3729-7595**  
ホームページは [www.bishinbun.com/](http://www.bishinbun.com/)

掲載された原稿の著作権はビル新聞社に帰属します。

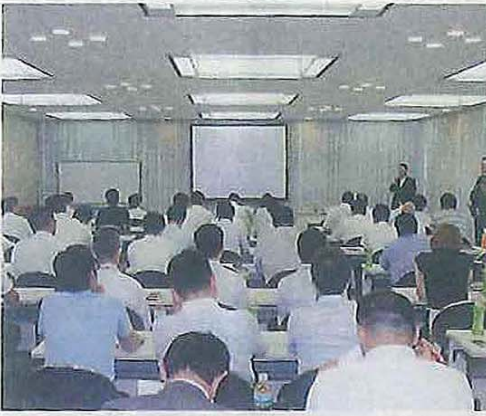
## フロアケアに新革命

# 「第三世代UVコーティング」

## 労力とコストを最小化

IC研究会

IC研究会は7月25日、都道府県会館(東京)で「第三世代の「UVコーティング」が拓くビルメンテナンスの新しい可能性」をテーマにオープンセミナーを開催した。セミナーではフロアケアの省力化に成功した事例をはじめ、バリアフリー新法の安全基準を上回る防汚施工や、これまでのUV樹脂では難しかったカラーリング施工などの応用技術を紹介。洗浄ワックス塗布は「離」という従来の定期清掃に代わる新しいフロアケアとして、コーティングの常識を覆す第三世代のUVコーティング技術を紹介した。



大盛況だったオープンセミナー

ルメン業界は長く、閉塞的な状況に直面している。第三世代UVコーティング技術は、これまでの経験や知識に新しい技術を加え、業界を越えた新たな価値を提供できると確信している。業界に新しい風を吹き込む熱い思いで



玄地会長



田中氏

「取り組んでいる」といさつ。田中晃SOCSマネジメントシステムズ(株)代表取締役は、「第三世代UVコーティングが拓くビルメンテナンスの事業革新」と題して講演した。

6年前、従来のタイプとは違う無溶剤タイプのUVコーティングと出会い、その性能を検証することに。大手外食チェーン店では、入口、カウンター前、客席に同コーティ

ングを施工。施工後は店舗スタッフによる水拭き作業と月1回の表面洗浄作業を実施。定期的なワックス作業をしなくても16カ月美観を維持した。

中規模病院の外来フロアに施工したケースでは、定期作業は行わず、日常作業と月1回ほど自動洗浄機を使った表面洗浄作業の管理で、5年経過した現在も衛生的な美観を維持している。

検証結果について田中氏は「時間の経過とともに光沢値は低下したが、UV樹脂コーティング自体の光沢と透明感で美観を維持している。さまざま意見はあると思うが、光沢値より美観度、清潔度を改善、維持することが重要ではないか」と美観度は光沢値だけでは評価できないと指摘。

さらに、床管理の労力、コストを最小化することができれば、床以外の衛生、美観に目を向ける余地がうまれ、顧客の満足度を高めることにつながることを強調した。

IC研究会では、第三世代UVコーティングのオリジナル規格を「UV3・0」と命名。今後さまざまな現場

で検証テストを継続し、有効性を実証していく。UV3・0の基準は次の通り。

- ①短時間で施工が可能
- ②柔軟性が高く、母材への追従性が高い
- ③リコートや部分補修が簡単にできる
- ④無溶剤タイプで低臭
- ⑤防滑加工やカラーリング加工など応用技術で事業機会拡大が可能

新しい事業機会の可能性



デモをする鈴木氏

塗布後すぐに照射

コーティングに防滑加工や抗菌加工など付加価値を付けることで、価格競争には陥らないとのべ、カラーリング施工による床改修工事など、フロア以外のさまざまな用途での活用方法を紹介した。

セミナー終了後、参加者からは「台車でコーティングがはがれる。UVコーティングは大丈夫か」、「滑り止め効果は何年ものか」、「タイヤ痕への対応は」など質問が相次ぎ、関心の高さを示した。

同セミナーは、東京を皮切りに仙台でも開催し、8月8日には広島で開催する。

IC(Innovation with Coating)研究会とは

第三世代UVコーティングの技術を、広く、正しく普及させ、ビルメンテナンス事業の可能性を、会員の協働で切り開くことを目的とした研究会。

現在、ビルメンテナンス会社をはじめ、資機材メーカー、販売会社、輸入業者、施工業者で構成している。

コーティングを単にワックス管理の代替品や、価格競争の手段とするのではなく、コーティングが秘める可能性を実証的に検証し、ビルメンテナンスの新しいビジネスの可能性を拓いて行きたいとして、共に研究、検証する会員を求めている。

問合せは、同研究会事務局(TEL 03-5732-0101 加藤産業(株)内)まで。